

第8回 小学校再編に関する地域住民説明会（櫛淵小学校区） 概要

- 日 時 : 令和元年 11 月 6 日（水） 19 時開始
- 場 所 : 櫛淵小学校体育館
- 参 加 者 : 11 名
- 教育委員会 : 小野寺教育長 他 8 名
（事務局）
- 内 容 : 1. 開 会
2. 教育長あいさつ
3. 教育委員会職員紹介
4. 配布資料確認
5. 説 明
① 学校再編の目的
② 学校再編の具体的方針
③ 検討プロセス
④ 今後の進め方
6. 質疑・応答（意見交換）
7. 閉 会

地域・保護者等から出された主な意見と回答

○今回、学校で基本的に2クラスずつだが、2校だけ1クラスになるということで、2030年は今から11年後。出来るのも2030年に全部できてそれからスタートになっていく。それから、10年後にはどうなっていくのか。例えば、2クラスあるところが1クラスになったりすることもあるのではないかと思う。そうしたら、またそこで再編という話になってこないか。

多分何個かシミュレーションされただろうが、どの時点で再度再編というのがまた生まれてくるのか。それをお聞き出来たらと思う。

→（回答）

人口の推移に関しては、2030年度の1,125人ではあるが、それ以降、2040年、2050年、2060年と、推計はある。2040年時点では、南小松島小学校と新開小学校の複数クラスは、そのときは維持できる見込みである。2050年時点では、南小松島小学校だけが複数学級で、それ以外の小学校は1クラスになってしまう。2060年になれば、南小松島小学校は複数の学級が維持できるが、他の小学校は1クラスになってしまう。現段階では、次の再編は考えてはいない。2030年での再編を終えて、それ以降の再編については、予定は未定である。

○これだけの投資をするのだから、ある程度のシミュレーションを皆に示さなければいけないと思う。貧乏な小松島市なので。多分これも税金とか国からの借り入れとかでいつか返さなければならないお金と思うが、これが皆の負担になってくるので。できるだけコンパクトで、投資の少ないやり方をしていただけたらと思う。できたら、2校ぐらいでいいのではと思う。子どもも本当にどんどんと減ってきて

いるので。先ほどおっしゃったように、2校が1校になったりするし、1校ももしかしたら複式になってきたりするのではないかと。見えないところがいっぱいある、私達にとっては。2030年まで見えるけど、それ以降がブラックボックスの中で、どうにかなるだろうみたいな方向で行っているのではないかと。すみません勝手なことばかり言って。

→ (回答)

人口推移の数字に関しては、今後どのように変わっていくのか想像できないところではあるが、人口が減っていく予測ができていくことになるが、投資をする施設等については、既存校舎を活用するような方向で費用負担を抑え、これについて断言はできないところではあるが、今の施設の詳細な調査から始めていく。

○教育長は、やはり「1学年2学級」が必要ということを盛んにおっしゃっておられる。2学級にするのだと。この資料を見ると、2030年に4校にすると。そうしたらこの4校は全て「1学年2学級」になるのか。

→ (回答)

先ほども説明させていただいたが、4校のうち2校は、2クラス以上にはならない、という計画ではある。

○そうすると、2030年に児安小学校と和田島小学校は「1学年1学級」ということになる。教育長がこだわっている「1学年2学級」にはならない。そういう考え方からいくと、おかしいことにはならないか。

→ (回答)

昨年度の説明会、「1学年2学級」という形で説明をし11小学校を回った。2校案から検討していったが、子どもの日々の通学の安全安心に配慮した結果、理念がそのまま貫くという形がとれず、学校数が減ることにより小学校間の連携、小中の連携が取りやすくなると思った。

そのような形で、当初の「1学年2学級」は達成できなかったが、十分教育効果が期待できると考えた。

→ (回答)

2学級をめざすと。どうして2学級をめざしたのかという話。それはやはり2学級にすることで、集団での活動とか、いろいろなものを学校教育の中に取り組みでいきたいという思い。ただ、その2学級をめざしていくと、徒歩で通学できる児童数がすごく少なくなる。要は、学校から4kmぐらい歩かないといけない子どもが出てしまう可能性が多くなる。それでスクールバスなどの支援策も考えている。

2クラスをめざすというのは、単に2クラスという学級数をめざすのではなく、その教育効果をめざしている。そこに徒歩で通学できる、通学がしやすい子どもたちを多くして、連携をすることによってその部分を担保していこうとしている。多くの子どもたちが小学校なので、できるだけ歩いて行ける、それを望んだが故に、先ほどご指摘があったような内容にズレが生じている。

○私は思うが、2030年、約10年後、でもやっぱり「1学年1学級」は残るのだったら今でも「1学年1学級」で許すのではないかと。これは僕の考え。なぜかと言うと、少人数学級で結構教育効果を上げている学校もある。先日も私言ったように、教育長と私と考えが違うところだが、「1学年2学級」にし

なければならぬ。なぜそこにこだわるのかなど。「1学年1学級」でもいいではないか。そこで素晴らしい教育をしたらいいと思う。

10年後、児安小学校と和田島は「1学年1学級」。先ほど発言された方のように、さらに10年後になると「1学年2学級」であったところも「1学年1学級」になることもありうる。担当が言ったように、40年、50年になったら、結局は南校しかならないように「1学年2学級」残らないようになる。だから、「1学年2学級」にそのようなことにこだわっていたら、教育の方針としてちょっとおかしいと僕は思う。

「1学年1学級」でも立派な子どもを育てられる教育はできるはず。それにこだわっていれば30年、40年後、「1学年1学級」になったら、理屈が合わないようになると思わないか。先日も言ったように「1学年1学級」の小学校は徳島県に99校ある。僕の勉強不足かも知れないが、「1学年2学級」にしなければならぬという、他の自治体で学校の統廃合しているところは、今のところ小松島だけじゃないか。

やはり、ここの櫛淵もどうなのか。小学校できて、私、千代小学校。100年以上の歴史がある。ここも相当な歴史があるのではないか。それぞれの小学校には、小学校だけでなく、その小学校があることによって、文化もあるしコミュニティもあるし、いろいろなものがある。だから私は、総合的に考えていただきたい。「1学年2学級」にこだわると、30年、40年後、「1学年1学級」になったらどうするのだという、最初言ったことが崩れてくると私は思う。